

彫刻家 上床 利秋

## 良い音のする風鈴とは

人によって好みがあるので絶対という言葉はあり得ないのだけれども、一般的に「良い音のする風鈴」の形は、その制作を経験してきて、共通点があることに気が付いた。(下図参照)  
奥は広く、口は外側を向き、厚みは薄い方が可愛い音が出る。鑄造の職人さんと意見が合致して、確信することだった。

ロウで直接原型をつくっても、分厚くなると可愛い音にならない。やはり、粘土で原型づくりをして、石膏雌型にしてからロウを薄く流し込んだ造形の方が軽やかに響く良い音になるようだ。

しかし荘重で深い響きを必要とするお寺の大型の鐘をつくるには多くの制作経験と知識を必要とするようだ。

「音」をつくる金属造形学は奥深い。

だからと言って美術鑄造した金属の鐘は自由に表示しても音は響くわけだから、自分にとって愛着のある形を楽しむのも、やはり良いと思う。

読者の方々も自分でつくった風鈴を鳴らしてみませんか？

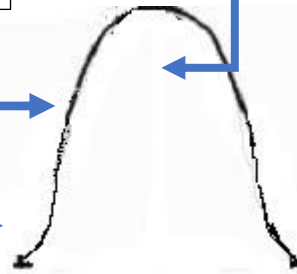
2024年8月

良く響く風鈴のかたち

奥の方にドーム状の広がりがある

厚みは薄い方が軽やかな音色

口の外側に広がる



取材中の MCT 放送制作部の池田さん



アトリエで生まれた風鈴第一期生たち



穴が開いていても、音はきれいに響く。



今回の取り組みは南九州ケーブルテレビ (MCT) が取材して取り扱ってくれました。8月24日19:00頃より1週間放映予定。